

提 案 概 要

実施期日	7月28日(火)【午前】
部 会 名	小学校 家庭部会

1 提案テーマ 『家族の一員として、自ら考え実践できる家庭科を目指して』

2 単元(題材) 「考えよう 買い物とくらし」 ～めざせ! 買い物名人～

3 学年 第5学年

4 平成27・28年度神奈川県小学校教育課程研究会研究主題とのかかわり

① 2学年間を見通した指導計画、評価計画の作成と学習指導の工夫

- ・実践的・体験的な活動、問題解決的な学習、言語活動の充実を目指した学習指導の工夫

5 学習指導要領との関連

第2章 第8節 家庭 第2 各学年の目標及び内容〔第5学年及び第6学年〕2 内容 D 身近な消費生活と環境

(1) ア 物や金銭の大切さに気付き、計画的な使い方を考えること。

イ 身近な物の選び方、買い方を考え、適切に購入できること。

6 実践に向けての課題意識

- ・家庭で扱う金銭は家族が働くことによって得られた限りあるものであるからこそ、有効に使う姿勢を育みたい。そのために、買い物の計画を立て、商品を適切に選び、買い方を考え、実際に買い物をするという展開により、適切に判断する力が育つと考えた。
- ・児童にとって家庭科は、調理実習や裁縫などの実技があって楽しい教科である。しかし、授業において楽しく学んだことが、家庭生活に生かされていないように感じる。そこで、家庭生活と切り離すことができない「買い物とくらし」の単元において、「家族のためにみそ汁を作ろう」という課題を設定し、児童が意欲的・主体的に取り組むことができる展開を計画した。必要な情報を自ら集め、実践的に学習を進めることで、家庭生活と密着した学びが構成できると考えた。
- ・実践的な学びがより確かなものになるよう意見交流を大切にしていきたい。そのために、まず自分が経験してきた買い物の仕方を見つめ、家族がおこなっている買い物の仕方や工夫を調べ、さらには友だちの考えや調べたこととの交流の場を設定する。お互いの気付きを交流することによって、より買い物の仕方について深く考え、「納得ができる買い物をしたい」という気持ちが育つと考えた。

7 実践の概要

- ・自ら考え実践し、学んだことが家庭生活に生かせるように、「めざせ! 買い物名人」と題し授業を構成した。『その壱: 買い物をするときの観点を調べる』⇒『その弐: 家族の工夫を知り、自分なりの買い物の仕方を知る』⇒『その参: 家族のためにみそ汁を作るための買い物の計画・実践』⇒『その四: 自分の買い物を振り返る(パンフレット作り)』の4つの段階を設定し、児童の学びがスムーズにつながる展開とした。
- ・意見交流を大切にするために、校内研究「伝え合う力の育成」における「学びの4つのステージ」(自分なりの**考えをもつ**→友だちに自分の考えを**表現する**→交流しながら**解決する**→自分の考えを**決定する**)を、本授業実践でもあてはめて、各時間において意識的に取り入れた。

8 成果と課題

成果	課題
<ul style="list-style-type: none">・児童一人ひとりが、「家族のためにみそ汁を作る」という目的意識をもって、買い物を実践することができた。・学校での学びを家庭での実践につなげることができた。・家族が関わることで、達成感を得ることができた。・家族が普段おこなっていることの大変さや工夫を知り、自分なりの工夫を考えることができた。・友だちの調べたことや実践したことを交流することができた。	<ul style="list-style-type: none">・授業時数の確保とともに、時数が膨らまないよう効率よく進める工夫が必要だった。・一度の買い物だけでなく、計画→買い物という流れを遠足などから改めて事前に設定し、変容が分かるように実践できればよかった。・個人での買い物の振り返りはできたが、その振り返りを全体で共有する時間が確保できなかった。

9 予想される協議の柱

- ・「買い物とくらし」の単元における、具体的な活動の扱いや目的意識の持たせ方について
- ・家庭科の授業と家庭生活との連携のとり方について